vinetur

ボーヌの競売にアンリ・ジャイエのワイン36本、すべて同一の個人セラーから

ドメーヌから直接購入されたアンリ・ジャイエのワイン36本がボーヌで競売に。手数料別の予想価格は9万1,000～13万8,300ユーロ

2026年11月16日（月）



ドメーヌ・アンリ・ジャイエのワイン36本を収蔵した個人セラーのコレクションが、11月13日にボーヌで競売にかけられた。ブルゴーニュで最も注目を集める生産者の一人に対する根強い需要を浮き彫りにする出品となった。オスピス・ド・ボーヌの週末を前にLandre-Beauneが主催した競売で、手数料別の暫定予想価格は9万1,000ユーロから13万8,300ユーロだった。

このコレクションの特徴は、単一の所有者による来歴が明確なことだ。競売会社によると、出品者はボトルをドメーヌから直接購入し、その後ずっと同じ個人セラーで保管してきた。来歴や保管履歴が、ヴィンテージの品質と同じほど価格を左右することもあるブルゴーニュのコレクター市場において、この由来は競売の大きな魅力となった。

コレクションの背景は1984年4月にさかのぼる。当時、テイスティングクラブの一行がブルゴーニュを巡り、ヴォーヌ・ロマネでアンリ・ジャイエを訪ねた。ジャイエは訪問時にセラーを開き、一行にワインを注ぎながら、自身の仕事を特徴づけるようになった手法について説明した。所有者が今も保管しているクラブメンバーの一人による記録には、収量の管理、短梢剪定、除梗、新樽での熟成、そしてワインをろ過しない方針についてのジャイエの見解が記されていた。

その記録には訪問時のテイスティング所感も残されており、1982年のヴォーヌ・ロマネ、クロ・パラントゥー、レ・ブリュレ、エシェゾー、リシュブールに加え、1978年のエシェゾーについての記述がある。ある所感では、1982年のクロ・パラントゥーは当時、より繊細で閉じていたと評されていた。1984年4月に試飲されたワインは、今回出品されたものと同じヴィンテージではない。しかし、この記録は所有者とドメーヌとの直接的なつながりをたどり、40年以上続く収集の始まりを明らかにするものとなった。

2006年に亡くなったアンリ・ジャイエは、今も20世紀のブルゴーニュを代表する最も影響力のある人物の一人だ。その名は、ヴォーヌ・ロマネの小規模な一級畑クロ・パラントゥーと深く結びついており、ジャイエの仕事を通じて、この畑の国際的な評価は大きく高まった。丁寧なブドウ栽培と精緻な醸造を重視するジャイエの手法は、後の世代の生産者にも影響を与えた。生産量が少なかったため、ドメーヌのワインは今もファインワイン市場で最も引く手あまたのボトルに数えられる。

11月13日の出品は、こうした評価を軸に構成された。36本のうち21本は、1983年、1985年、1986年、1987年、1988年、1994年ヴィンテージのヴォーヌ・ロマネ・プルミエ・クリュ、クロ・パラントゥーだった。各ボトルの予想価格は4,000ユーロから6,000ユーロで、この銘柄が競売の中心を占めた。

残るボトルは、希少性と一貫した来歴という競売の焦点を変えることなく、品ぞろえに幅を持たせた。1987年と1988年のエシェゾー・グラン・クリュが5本、1986年のヴォーヌ・ロマネ・プルミエ・クリュ、レ・ブリュレが4本、1988年のヴォーヌ・ロマネ村名ワインが6本含まれた。エシェゾーとレ・ブリュレは1本1,000ユーロから1,500ユーロ、ヴォーヌ・ロマネ村名ワインは1本500ユーロから800ユーロの予想価格が付けられた。

Landre-Beauneは、ボトルを一括ロットではなく1本ずつ出品した。これにより買い手はセラー全体ではなく、特定のヴィンテージやアペラシオンを選んで競りに参加できる。この形式は、コレクターが生産者や年、畑を限定して狙うことの多い市場で、入札の裾野を広げる可能性がある。今回、競売会社が訴求点として挙げたのは、アンリ・ジャイエのボトルの希少性、36本すべてが同一のセラーから出たこと、そしてコレクションとドメーヌへの直接訪問を結びつける記録の3点だった。

競売に先立ち、ボトルは11月12日まで予約制で、また11月13日にはボーヌのRue de ChevignerotにあるLandre-Beauneの会場で閲覧できた。同社によると、入札者は事前登録のうえ、会場、電話、オンラインで参加できた。